

地域の子どもたちとのかかわりを大切に ～居住地校交流の取組を通して～

熊本県立天草支援学校

本校では、今年度より、居住地校交流を開始しました。居住地校交流とは、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことを目的に、児童生徒が住んでいる地域の学校と行う交流のことです。本校では、初めての取組になります。相手校と話し合いを重ね、より充実した交流になるよう計画的に取り組んでいます。現在、小学部1・2年の児童3人が交流しています。その中で、1学期に実施した2校との交流について紹介します。

天草市立亀川小学校との交流

小学部2年の男子児童が交流しています。1学期の交流では、2年生と特別支援学級のみinnで一緒に「たんざくまつり」(七夕集会)の活動を行いました。交流前から、本校や家庭でも七夕飾りを作ったり、短冊におねがいごとを書いたりして、事前学習に取り組みました。

交流当日、本校児童が2年生の教室に入ると、みんなと同じ机、椅子が準備してありました。クラスの一員として迎えてもらい、心温かくなりました。初めは少し慣れない様子が見られましたが、自然に友達の輪が広がり、みんなと一緒に飾り付けをして大きな七夕飾りが完成しました。事前に準備していた飾りがなくなると、友達が飾りを持ってきて、「一緒にしよう」と誘う場面もあり、たくさんの友達とかがわることができた交流となりました。最後に記念写真も撮りました。

小学校の友達も、次回の交流を楽しみにしているようです。



天草市立楠浦小学校との交流



小学部2年の男子児童が交流しています。1学期は2年生と図工の粘土を使った学習での交流を行いました。初めての交流でしたが、小学校と打ち合わせを行う中で、かかわりがより深くなるよう、学習での交流と合わせて、給食を一緒に食べることになりました。

交流当日は、本校で作ったプレゼントを持っていき、交流のあいさつの際に渡しました。粘土の制作活動が始まると、たくさんの友達が集まってきました。それぞれが型抜きした粘土を持ってきたり、本校児童が持ってきた道具を貸してほしいと言ってきたりと、最初から最後まで大勢に囲まれ、とても楽しい雰囲気で行うことができました。給食では、友達が周りに集まったり、隣の友達の様子を見て喜んだりする場面もありました。たくさんの友達と一緒に大いに盛り上がった交流となりました。

交流後、小学校の友達から「次はいつですか?」「もっとしたいです」などの声も挙がっていて、次回の交流がさらに楽しみになりました。

「かかわり」「つながり」を大切に

本校1年の児童については、2学期から上天草市立中南小学校との交流を計画しています。

居住地校交流は、住んでいる地域の仲間とのかかわり、就学前(幼稚園・保育園)からのつながりといった「かかわり」「つながり」を大切に交流です。本校ではスタートしたばかりの居住地校交流ですが、今後も続けていき、多くの友達とかがわり、将来の地域での生活につなげていきたいです。